

副産物情勢

1月7日

更新

JA全農ミートフーズ株式会社

項目	内 容	備 考																							
内臓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年11月の成牛と畜頭数は、105.1千頭(前年比100.8%)となった。 内訳を見ると、和牛53.3千頭(前年比104.9%)、交雑牛21.9千頭(同 98.0%)、乳牛去勢13.9千頭(同 96.5%)であった。 ○ 令和2年12月の成牛と畜頭数は、速報値(12/28まで集計)で97.8千頭(前年比103.4%)と前年を上回った。 ○ (独)農畜産業振興機構が12月24日に公表した牛肉の需給予測によると、1月の生産量は全ての品種で出荷頭数の減少が見込まれることから、前年同月をやや下回ると予測している。 3ヶ月平均(11~1月)について、出荷頭数・生産量ともに前年同期をわずかに上回ると予測している。 ○ 需要動向は、外食業態への時短要請が12月から再開始したことで荷動きは一転鈍くなり、と畜頭数の増加によって供給と需要のバランスが崩れた。 焼肉・ホテル関係の落ち込みは顕著に見られたが、小売り需要等の小腸・シマチョウは輸入物の代替で一定の引き合いがあるようだ。 ○ 流通相場は外食メインの商材のため依然厳しく、特にホルス牛原料の在庫が膨れ上がっているメーカーが多いと聞く。 	<p>1.東京市場内臓価格 単位:円/枝肉kg</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛内臓</th> <th>豚内臓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年6月9日</td> <td>30/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成26年11月10日</td> <td>35/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成28年6月6日</td> <td>40/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成31年4月1日</td> <td>45/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年4月20日</td> <td>25/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月1日</td> <td>35/枝kg</td> <td>7/枝kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>※乳牛も同様35円/kg *豚正貫物</p>	価格改定年月日	牛内臓	豚内臓	平成26年6月9日	30/枝kg	9/枝kg	平成26年11月10日	35/枝kg	9/枝kg	平成28年6月6日	40/枝kg	9/枝kg	平成31年4月1日	45/枝kg	9/枝kg	令和2年4月20日	25/枝kg	5/枝kg	令和2年7月1日	35/枝kg	7/枝kg		
価格改定年月日	牛内臓	豚内臓																							
平成26年6月9日	30/枝kg	9/枝kg																							
平成26年11月10日	35/枝kg	9/枝kg																							
平成28年6月6日	40/枝kg	9/枝kg																							
平成31年4月1日	45/枝kg	9/枝kg																							
令和2年4月20日	25/枝kg	5/枝kg																							
令和2年7月1日	35/枝kg	7/枝kg																							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年11月度全国の肉豚出荷頭数は1,452千頭(農林水産統計12/25公表 前年同月比102.4%、前月比98.1%)となった。 11月の全国地域別出荷頭数を前年同月比で見ると、北海道104.3%、東北99.9%、関東103.4%、北陸甲信越100.6%、東海105.9%、近畿106.2%、中四国99.8%、九州・沖縄102.5%となった。 ○ 令和2年12月の全国と畜頭数は、速報値で1,497千頭(12/28まで集計)、前年同月比101.2%となっている。稼働日数では昨年と同じ21日となり、1日当たりの平均と畜頭数は速報値段階で71,300頭となっている。(前年は70,452頭/日) ○ 農水省食肉鶏卵課令和2年12月18日付肉豚生産出荷予測によると、今後の出荷予測頭数は令和3年1月1,393千頭(前年同月比96%)、2月1,307千頭(同99%)、3月1,409千頭(同98%)、4月1,365千頭(同94%)となっている。 ○ 需要動向は、先月に引き続きタン・ハツ・小腸・ガツ・豚耳が堅調に推移している。但し、レバー・直腸は焼き需要の不振から荷動きが悪い。 流通相場はコロナ以前まで回復する兆しへは今のところ見えないが、鶏インフルエンザの影響で安価な豚内臓に引き合いが出れば相場が底上げされる可能性はある。 ○ 新型コロナウィルス感染拡大の影響で外食需要が再度落ち込みを見せているが、内食・中食需要の伸びで需給バランスは大きく崩れていない。 	<p>2.大阪市場内臓価格 単位:円/枝肉kg</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛内臓</th> <th>豚内臓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成24年7月13日</td> <td>30/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成26年11月10日</td> <td>35/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成28年5月30日</td> <td>40/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成31年4月1日</td> <td>45/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年4月20日</td> <td>25/枝kg</td> <td>3/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月1日</td> <td>35/枝kg</td> <td>4/枝kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>*H23.4.1から枝重500kg以上が510kg未満に改定</p>	価格改定年月日	牛内臓	豚内臓	平成24年7月13日	30/枝kg	5/枝kg	平成26年11月10日	35/枝kg	5/枝kg	平成28年5月30日	40/枝kg	5/枝kg	平成31年4月1日	45/枝kg	5/枝kg	令和2年4月20日	25/枝kg	3/枝kg	令和2年7月1日	35/枝kg	4/枝kg			
価格改定年月日	牛内臓	豚内臓																							
平成24年7月13日	30/枝kg	5/枝kg																							
平成26年11月10日	35/枝kg	5/枝kg																							
平成28年5月30日	40/枝kg	5/枝kg																							
平成31年4月1日	45/枝kg	5/枝kg																							
令和2年4月20日	25/枝kg	3/枝kg																							
令和2年7月1日	35/枝kg	4/枝kg																							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年11月の輸入通関実績によると牛肉輸入量は全体で49.4千t(前年比104.5%、前月比97.0%)となった。 内訳は、チルドが21.6千t(前年比101.0%、前月比101.1%)、フローズンが27.8千t(同 107.5%、同 94.1%)となった。 チルド輸入量は豪州産が現地の出荷減や入船遅れの影響で減少したものの、前年同月で国内在庫を背景に手当てを絞ったことから前年を上回っており、フローズンも前年度に調達を調整したことや米国産の前年通関が少なかった反動などにより、全体として前年を上回る結果となった。 ○ (独)農畜産業振興機構が12月24日に公表した牛肉の需給予測によると、チルド輸入量は豪州産の干ばつ後の牛群再構築による生産量減少に伴う現地価格の高騰や新型コロナウィルス感染症の影響に伴う北米工場の作業効率の低下が継続する中、北米からの入船遅れや前年度の日米貿易協定の発効による関税の引き下げを見越した通関繰越の反動等から、12月は前年同月をわずかに上回り、1月はやや下回ると予測している。フローズン輸入量について、12月は前年度の輸入量が外食等の好調な需要を背景に多かったことから前年同月を大幅に下回り、1月は前年度の日米貿易協定の発効による関税の引き下げを見越した通関繰越の反動等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測している。 ○ 令和2年11月の冷凍輸入牛レバーは46.2t(前年比169.8%・前月比57.9%)で、国別では米国18.2t、豪州23.0t、墨国5.0tであった。 冷凍輸入牛腸は1,317.4t(前年比87.7%・前月比123.8%)で、国別では米国988.7t、豪州149.5t、墨国88.4t、加奈陀90.7tとなった。 	<p>3.東京市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛原皮(和牛)</th> <th>豚原皮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年11月1日</td> <td>1,000/枚</td> <td>100/枚</td> </tr> <tr> <td>平成31年1月5日</td> <td>1,000/枚</td> <td>30/枚</td> </tr> <tr> <td>令和元年7月22日</td> <td>700/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年3月16日</td> <td>500/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年6月15日</td> <td>100/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月20日</td> <td>100/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年9月28日</td> <td>10/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮	平成30年11月1日	1,000/枚	100/枚	平成31年1月5日	1,000/枚	30/枚	令和元年7月22日	700/枚	10/枚	令和2年3月16日	500/枚	10/枚	令和2年6月15日	100/枚	10/枚	令和2年7月20日	100/枚	2/枚	令和2年9月28日	10/枚	2/枚
価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮																							
平成30年11月1日	1,000/枚	100/枚																							
平成31年1月5日	1,000/枚	30/枚																							
令和元年7月22日	700/枚	10/枚																							
令和2年3月16日	500/枚	10/枚																							
令和2年6月15日	100/枚	10/枚																							
令和2年7月20日	100/枚	2/枚																							
令和2年9月28日	10/枚	2/枚																							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年11月の輸出実績は、47,105枚(前年比107.1%、前月比90.0%)で、前年を上回り、前月を下回った。輸出平均価格は1,248円/枚(前年比-492円、前月比+208円)で、3ヵ月連続で前月比がプラスに転じた。国別実績は、タイ18,140枚(前年比107.2%)、韓国4,175枚(同50.9%)、ベトナム16,430枚(同97.1%)、香港8,360枚(同428.7%)で、タイとベトナムが同規模で推移した。一方、ウエットブルーの輸入は、6.6千枚(前年比47.5%、前月比47.9%)、牛大判皮は15.4千枚(前年比37.6%、前月比88.6%)となった。 ○ 世界的な新型コロナウィルス感染拡大の影響で皮革製品需要が再停滞しており、8~9月の価格底値感から脱した状況から再度不透明な状況に陥っている。 ○ 国内需要は12月稼働を早々に切り上げるタンナーが多いほど革需要は無いが、春夏頃の二束三文で流通する話は聞こえてこない。 ○ 農林水産省の原皮需給安定緊急対策事業は令和3年度も継続することで決定した。 	<p>4.大阪市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛原皮(和ヌギ)</th> <th>豚原皮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成31年1月28日</td> <td>1,300/枚</td> <td>30/枚</td> </tr> <tr> <td>令和元年7月16日</td> <td>1,000/枚</td> <td>30/枚</td> </tr> <tr> <td>令和元年8月15日</td> <td>1,000/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年3月16日</td> <td>800/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年6月22日</td> <td>300/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月27日</td> <td>300/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年9月28日</td> <td>10/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛原皮(和ヌギ)	豚原皮	平成31年1月28日	1,300/枚	30/枚	令和元年7月16日	1,000/枚	30/枚	令和元年8月15日	1,000/枚	10/枚	令和2年3月16日	800/枚	10/枚	令和2年6月22日	300/枚	10/枚	令和2年7月27日	300/枚	2/枚	令和2年9月28日	10/枚	2/枚
価格改定年月日	牛原皮(和ヌギ)	豚原皮																							
平成31年1月28日	1,300/枚	30/枚																							
令和元年7月16日	1,000/枚	30/枚																							
令和元年8月15日	1,000/枚	10/枚																							
令和2年3月16日	800/枚	10/枚																							
令和2年6月22日	300/枚	10/枚																							
令和2年7月27日	300/枚	2/枚																							
令和2年9月28日	10/枚	2/枚																							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年11月の輸出実績は、1,028,576枚(前年比91.8%、前月比92.0%)で、前年・前月ともに下回った。輸出平均価格は388円/枚(前年比+32円、前月比+30円)となった。国別実績は、タイ690.6千枚(前年比78.1%)、韓国28.2千枚(同50.1%)、カンボジア116.8千枚(同198.3%)、ベトナム144.1千枚(同119.2%)、香港48.8千枚(同実績なし)、フィリピン・台湾・ミャンマーは実績なし。 ○ コロナ前と変わらない輸出価格で流通しているが、新型コロナウィルス感染拡大の影響で製品需要が伸び悩んでいることから楽観視はできない。 	<p>5.油脂価格(食用向け) 単位:円/kg</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛脂</th> <th>豚脂</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成31年3月11日</td> <td>85</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>令和2年2月1日</td> <td>90</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>令和2年8月1日</td> <td>95</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>令和2年9月1日</td> <td>95</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>令和2年11月1日</td> <td>95</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛脂	豚脂	平成31年3月11日	85	95	令和2年2月1日	90	95	令和2年8月1日	95	95	令和2年9月1日	95	85	令和2年11月1日	95	80						
価格改定年月日	牛脂	豚脂																							
平成31年3月11日	85	95																							
令和2年2月1日	90	95																							
令和2年8月1日	95	95																							
令和2年9月1日	95	85																							
令和2年11月1日	95	80																							
レンダリング	<ul style="list-style-type: none"> ○ 12月渡しの国内産食用加工油脂向け豚脂は80円/kg、牛脂は95円/kgと前月価格を据え置いた。 コロナ禍で豚脂の状況は依然として厳しい状態だが、短期間で15円/kgの大幅値下げをしたことから価格を動かす状況にはなかったと推測される。 牛脂は相変わらず堅調に推移しており、年末に向けて、と畜頭数の増加による発生量増加でも需給はバランスしているようだ。 ○ 11月マレーシア産バーム油相場は、105円(前月据え置き、前年+11円)であり、ラニーニャ現象の多雨による供給不安、インドの輸入関税引き下げ、米大豆高の影響で相場が高値推移している。10月生産量は前月比7.7%減少し、月末在庫は8.6%減少している。尚、月末在庫の低水準は2017年6月以来である。 ○ 11月の関東飼料用油脂は74円/kgと前月・前年とも同様であった。工業用油脂は45円/kgと前月・前年とも同様であった。 ○ 10月のUCオイル(ローリー)飼料用の関東標準価格は、前月・前年と同様の63円~66円/kg辺り。 																								